

東京外かく環状道路（関越～東名） 環境モニタリング調査（大気質・粉じん等）の結果について（お知らせ）

中央 JCT・東八道路 IC（仮称）周辺 大気質・粉じん等調査

平成 28 年 3 月～5 月（春季）に実施した大気質調査の結果についてお知らせします。

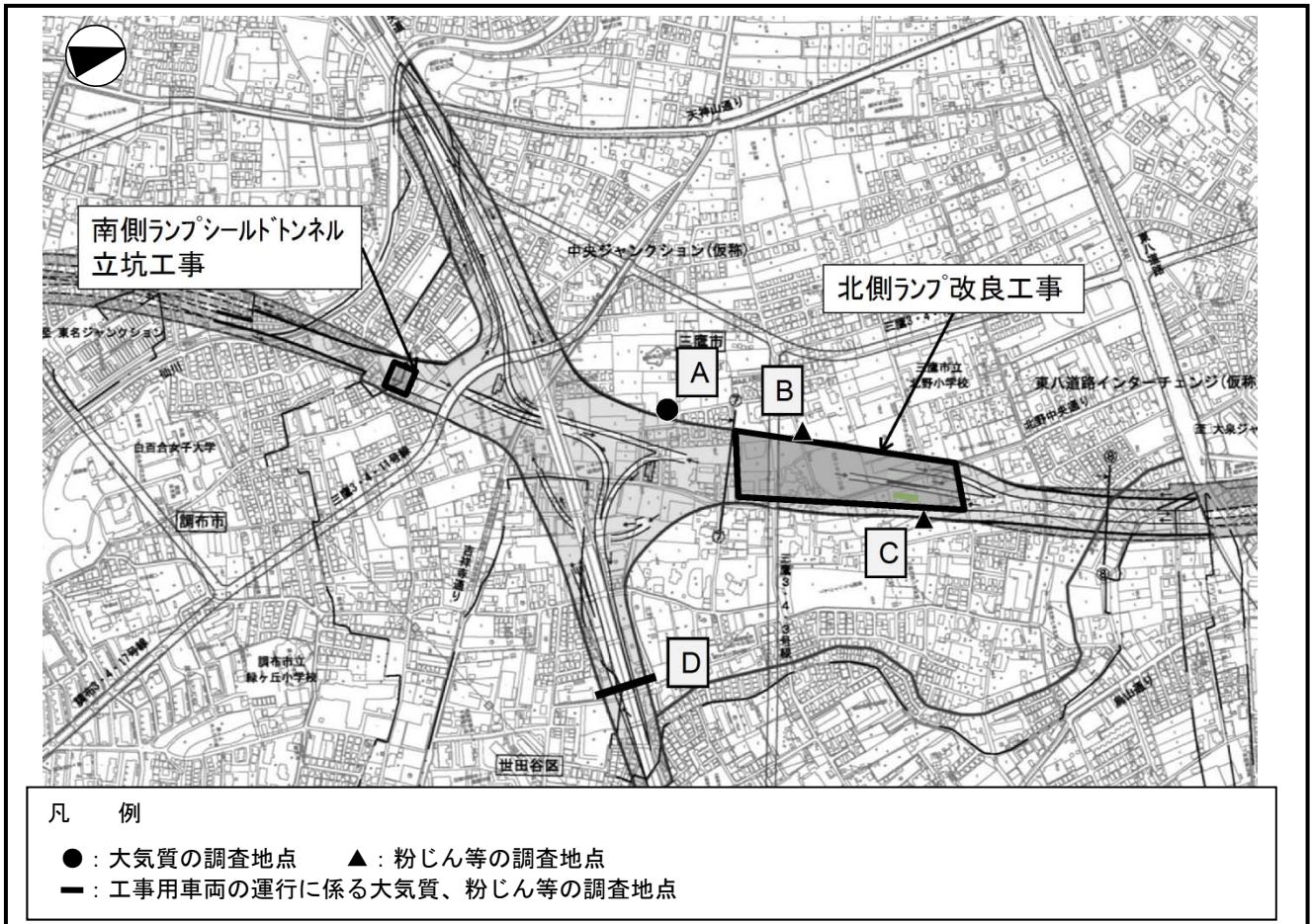
◆調査期間

春季

大気質：平成 28 年 5 月 20 日（金）～5 月 26 日（木）（7 日間）

粉じん等：平成 28 年 4 月 27 日（水）～5 月 27 日（金）（1 ヶ月間）

◆調査位置図



◆問い合わせ

担当窓口：国土交通省関東地方整備局 東京外かく環状国道事務所 計画課
電話番号：0120-34-1491（外環専用フリーダイヤル 平日 9：15～18：00）

◆調査結果

○建設機械の稼働に係る大気質【二酸化窒素（NO₂）、浮遊粒子状物質（SPM）】

- 二酸化窒素（NO₂）については、環境基準を下回る結果となっています。
- 浮遊粒子状物質（SPM）については、1日平均値、1時間値ともに環境基準を下回る結果となっています。

調査 時期	調査日	A		
		NO ₂ (ppm)	SPM (mg/m ³)	
		1日 平均値	1日 平均値	1時間値 の最大値
春季	5月20日	0.011	0.013	0.036
	5月21日	0.011	0.013	0.029
	5月22日	0.008	0.019	0.043
	5月23日	0.022	0.032	0.058
	5月24日	0.018	0.040	0.061
	5月25日	0.011	0.037	0.055
	5月26日	0.009	0.028	0.049
	期間内平均	0.013	0.026	—

○工事用車両の運行に係る大気質【二酸化窒素（NO₂）、浮遊粒子状物質（SPM）】

- 二酸化窒素（NO₂）については、環境基準を下回る結果となっています。
- 浮遊粒子状物質（SPM）については、1日平均値、1時間値ともに環境基準を下回る結果となっています。

調査 時期	調査日	D		
		NO ₂ (ppm)	SPM (mg/m ³)	
		1日 平均値	1日 平均値	1時間値 の最大値
春季	5月20日	0.016	0.009	0.023
	5月21日	0.015	0.009	0.020
	5月22日	0.011	0.015	0.042
	5月23日	0.023	0.030	0.053
	5月24日	0.018	0.036	0.052
	5月25日	0.008	0.033	0.053
	5月26日	0.007	0.023	0.042
	期間内平均	0.014	0.022	—

参 考

◆環境基準

二酸化窒素：1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。

浮遊粒子状物質：1時間値の1日平均値が0.10mg/m³以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m³以下であること。

※環境基準との評価は、『道路環境影響評価の技術手法』に基づいて、1年間の測定を通じて得られた1日平均値のうち、低い方から数えて98%目（若しくは高い方から数えて2%目）にあたる値を環境基準と比較することにより行います。

○建設機械の稼働に係る粉じん等

- 粉じん等（降下ばいじん量）については、いずれも参考値を下回る結果となっています。
- 地点Bではやや高い値となっていますが、これは裸地（畑など）が多い周辺の状況に加え、家屋の解体工事など複数の要因が影響しているためと考えられます。
- 今後も粉じん対策に努め、工事中の周辺環境の影響をできる限り低減するように努めて参ります。

	調査時期	B	C
降下ばいじん量 (t/km ² /月)	春季	11	6.7

○工事用車両の運行に係る粉じん等

- 粉じん等（降下ばいじん量）については、参考値を下回る結果となっています。

	調査時期	D
降下ばいじん量 (t/km ² /月)	春季	8.0

参 考

◆環境基準

降下ばいじん量に環境基準はありません。

◆参考値

降下ばいじん量：20t/km²/月以下

※環境を保全する上での降下ばいじん量は、スパイクタイヤ粉じんにおける生活環境の保全が必要な地域の指標*を参考とした20t/km²/月が目安と考えられます。（「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」より引用）

なお、計測されるばいじん量は建設機械以外から発生するものも含まれるため、環境影響評価では、上記基準を達成するよう、建設機械の稼働の寄与分を10t/km²/月以下とするよう評価を行っています。

*「スパイクタイヤ粉じんの発生の防止に関する法律の施行について」（平成2年7月3日、環大自第84号）